

～目次～

1. ボランティア募集について
2. 今後の会議・報告会の予定
3. 石巻・現地情報
4. 石巻・現地報告



< 1. ボランティア募集について >

①ボランティア登録人数 (6月7日(火)現在)

- ・現地ボランティア: 124名
- ・事務所ボランティア: 78名 の登録を頂いております

皆様お忙しい中のご参加で人員が不足しております。ご協力頂ける方は下記までご連絡下さい。

日本医療社会福祉協会 災害対策本部 (03-3351-5038 又は dsstsw@jaswhs.or.jp) 平日・土・祝 10~17時

※メールでのご連絡の際は、件名に「(現地) または (事務所) ボランティア希望」とご記載下さい。

②現地ボランティアについて

宮城県石巻市の避難所「遊楽館」へ、1日4~5名を目標に派遣を行っています。

- ・ご自分で車の手配(自家用車・レンタカーなどを手配し、運転出来ること)の出来る方、
- ・引き継ぎ等の関係により、前後の移動日を含めず、中3日以上活動出来る方が理想です。

③事務所ボランティアについて

活動日程: 月~土、祝日 の 10時~17時 ※半日での参加も可能です

活動内容: 主に現地ボランティアの派遣調整、現地とのやりとり、電話・メール対応、事務処理が中心です

1日4名を目標にご参加頂いております。関東近県はもちろん、関西や北陸など遠方からもご協力を頂いております。多くの方のご協力をお待ちしております。

< 2. 今後の会議・報告会の予定 >

●事務所ボランティア会議

日時：2011年6月20日(月) 19時~21時
場所：日本医療社会福祉協会 会議室
申込み：不要（直接会場へお越し下さい）

事務所ボランティア内での意見交換・情報共有を行います。また今後初めて事務所で活動される方のオリエンテーションも兼ねています。ご参加頂かなくても活動を始めることは可能ですが、事務所で活動をじっくり知ることができ、初日の心構えにもなりますのでぜひご参加下さい。

●現地ボランティア報告会

日時：2011年6月下旬を予定
場所：日本医療社会福祉協会 会議室
申込み：不要（直接会場へお越し下さい）

※日程が決まり次第、改めてご案内いたします

現地での活動報告と情報共有を目的とした会議です。5月後半~6月前半に現地で活動された方、今後活動をご希望の方、事務所ボランティアの方をはじめ、関心のある皆様のご参加をお待ちしております。

< 3. 石巻・現地情報 >

詳細は協会ホームページ内『[現地ボランティア応募フォーマットファイル](#)』をご覧ください (http://www.jaswhs.or.jp/upload/Img_Doc/1_Img_Doc.doc)

◆「遊楽館」での活動内容 ※内容は状況により変動します

- ・新規入所者からの情報収集
- ・個別ニーズに対するケースワーク（地元のSWとの協働）
- ・退所を含めた今後の生活再建に対する支援

※その他、遊楽館で活動するスタッフとのカンファレンス、行政との打ち合わせなどあり。また一般避難所に訪問し、各種手続きの案内と申請支援、福祉的避難所対象者の「遊楽館」入所相談などもあり。

◆宿泊場所

5月23日より、2LDKのマンションを宿泊場所として使用開始しました。

- * JR 東北新幹線 陸羽東線 古川駅より徒歩約9分
- * 駐車場1台（原則移動者1台以外は、遊楽館に駐車となります）
- * 布団はありますが、シーツ・枕カバー、タオルなどはご持参下さい。

マンションでの生活用品を寄附して頂ける方を募集！

現在不足しているのは、座布団、スリッパ、家電（冷蔵庫・洗濯機・電子レンジ・テレビ）等です。
詳しくは災害対策本部までお問い合わせください。

< 4. 石巻の現地ボランティア 活動報告 >

①佐々木 麻美子 氏（松井病院）

期間：4月29日～5月1日

4月29日から5月1日の3日間石巻市の遊楽館で活動してきました。被災地へ行く前から、私に何が出来るのだろうか。どんな事が求められるのだろうかと不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、現地での活動に入ってから石巻市立病院のSWへの後方支援について必死に考えて行動をしていました。私が主体で日ごろのケースのように動かすのではなく、私がいなくなったあと、石巻市立病院SWが動きやすいような情報収集や患者さんとの関わりとは何であるのかを視野入れ患者さんとの信頼関係の構築に努めました。

日ごろのケースではスムーズに進む在宅支援でもアパート探し在宅サービスがどの位機能しているのか、アパートは第二避難場所として認められるのかなど、たくさんの確認事項がありました。被災者である患者さんの不利益にならないように細心の注意をしながら、一つ一つを大切にケースと向き合いました。そして「石巻市立病院のSWと共に」を意識化しました。日ごろ意識化していないマクロ、メソレベルのソーシャルワークについて考えさせられる3日間でした。

②高橋 昌也 氏（三井記念病院）

期間：4月29日～5月5日

主な活動内容：遊楽館に在所する方への意向確認および福祉施設、二次避難所への遠隔地域への移動調整

私は主に遊楽館に在所している方々の今後の生活に対する意向調査を行った。遊楽館には80名前後の方が在所されており、自宅が全壊または半壊した方々や介護が必要な方が家族と共に生活をしている状況である。現地で被災状況を目の当たりにし、被災者の方々の心理的、身体的なストレスや疲労は多大なものだと感じました。その中で意向調査の面接では、今の自分たちの状況を改めて受け入れ、そして今後の生活を考えて行動に移せるよう、エンパワーを引き出すことや支援者につながる援助を行いました。私たちボランティアは一時的な介入であり、後方支援という立場である。地元の方々が自分たちで復興できたのだと思えるような支援方法の必要性を改めて感じました。また災害救助法や罹災・被災証明など、普通の業務では活用しない社会資源の対応を行うことが多くありました。復興まで長期的な支援が必要な中、石巻市の人たちの力強さを感じ、

今回の活動が一つの役に立つことができればと思います。

③藤田 寛 氏（横浜労災病院）

期間：5月14日～16日

13日（金）の夜、東京で待ち合わせた3名をピックアップ（自家用車）して4名で向かいました。高速（東北自動車道）は順調に走れましたが、石巻が近くなってからの三陸自動車道は片側1車線ということもありますが、被災地に向かう車が増え、かなりゆっくりになります。災害車両証明書に書いてあった「鳴瀬奥松島」でICをおりて一般道を通ったので、その後はスムーズに走れました。

遊楽館では、基本的には石巻市立病院のSWをサポートしていくことが活動の中心でした。毎月曜日の13:00～医療・福祉関連ミーティングがあるのですが、その時に配られたペーパーには、「後方支援の近況報告（MSW）」と書かれており、我々に求められている役割は、遊学館という福祉避難所から、入所者を次の生活環境へ退所支援していくことにあるのだということが初めてわかりました。入所している人の多くにケアマネがついているので、「今後はケアマネに積極的に来所してもらい避難所に介護サービス（デイや入浴サービス等）を導入することについて市の介護課から提案があり、SWが調整を進める」という報告をしましたが、その際も、サービスが入ることは望ましいが、返って退所にブレーキがかかることのないように、ケアマネさんたちに、避難所が退所前提であることをよく理解してほしいという注文がありました。多くの団体が入っていますが、少しずつ引き上げの話もあり、撤退時期に関してはわかった時点で必ず報告し、引継ぎを徹底してほしいということも言われました。石巻市立病院チームは自分たちも被災者であると同時に、支援者として中心で活動しており、頭が下がります。

最終日に石巻市内を車で走ってから帰路につきました。発災から2か月が経過しましたが、津波が根こそぎ奪っていった地域は、少しずつ手が入っているものの、まだまだ先が見えない状態が続いています。ちょうど大潮の時間帯だったのか、海岸沿いの道がどんどん浸水してくるので、それ以上進めなくなり引き返してきました。そんなエリアで流されずに残っている家（おそらくライフラインは復旧していない）に住んでいる人もおり、この人の生活はどうやって支えられているのだろうか大変気になりました。

わずか3日間の活動でしたが、とても濃い時間を過ごしまし

日本医療社会福祉協会

〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-20 四谷ヂンゴビル2F

電話 (03)3351-5038 (対策本部)

電子メール dsstsw@jaswhs.or.jp

た。

④飯塚 美乃 氏（順天堂大学医学部付属浦安病院）

期間：5月17日～18日

まずは、前任者のお二人のご協力に感謝します。5月16日(月)夜18時40分位に新幹線・古川駅に着き、前任者の方の自動車で『遊楽館』に到着。車中で「初めて参加されるSWの皆様へ」を拝見しながら現地ボランティアのオリエンテーションを受けることができ、館内案内やレクチャーもスムーズに入りました。交代しながら運転して帰られるお二人を見送り、日本医療社会福祉協会の拠点に戻り、明日のために資料の確認などを行い、避難者の調理に入っている団体の和室で休ませていただきました。館内は暖かく災害用毛布と座布団をお借りし持参した寝袋を敷いて手足を伸ばして眠れました。

翌朝はその団体が6時に起床ということで、一緒に起床し、決められたスタッフ用トイレで身支度を調べ、遊楽館の周りを散策しました。駐車場脇には大きな瓦礫の山が築かれていましたが、芝生の広場、滑り台やシーソーの遊具、石のオブジェや遊歩道のベンチ、パークゴルフ場と静かでのどかな環境です。「こもれびの降る丘」からの見える田園風景は千葉の谷津田とひと味違い、ここは宮城、石巻なのだと実感しました。朝食は機能の駅弁で済ませ、拠点の片付けをしながら、物の配置や皆様の差し入れの整理をしました。飲み物も食べ物も充分でジュースや缶詰のほか林檎や蜜柑などの生ものもあって、そろそろ暑くなってきましたので、要注意と感じました。

石巻市立病院のSW、日本医療社会福祉協会東日本大震災対策本部石巻災害対策委員長の草水さんが来館。挨拶もそれぞれ、9時から全体ミーティングが始まり15分ほどで終了し、SW打ち合わせ、介護保険課打ち合わせと続き、あっという間に午前の部が終了してしまいました。約90名の避難者に対し、

当日対応ケースは15件ほど。次々と交代するSWの引き継ぎ漏れがないように、取り組む内容が【当日版】と【随時版】とにリストアップされています。ケースごとに情報や意見交換が行われ、方針と担当者が決まりました。私が担当した避難者は、この日、入所して一ヶ月ぶりに会いに来た息子と娘と対面しました。被災状況や福祉避難所入所までの経過、家族の状況、今後の希望などの話を聞きながら、息子さんが福祉避難者であるお母さんと安心して会えるようにサポートしました。

10時半過ぎには、東京からSWが到着し、早速、昨日習った引き継ぎ事項をバトンタッチしました。私は明日には退去する2日間のわがままボランティアなので、早く引き継ぐ必要があったのです。午後には2週間滞在予定のSWが北海道から到着しました。オリエンテーションは東京のSWの方に任せ、私は別のケースを2件ほど担当しました。

夕方、再びSWの打ち合わせをし、石巻市立病院のSWから石巻市立病院を中心とした被災地のレクチャーを受けました。5時でボランティア終了後、自動車で石巻港近く市立病院が見えるあたりまで出かけました。道路が冠水していて先へは進めませんでした。唯一の救急病院である石巻赤十字病院、ボランティアセンターのある石巻専修大学、転院先として利用頻度の高い病院などにも行きたかったのですが、冠水と闇夜に阻まれ、夕食をコンビニで買うことが精一杯でした。到着初日で疲れているところをお付き合いいただいたお二人に心から感謝を申し上げます。

2日目は秋田からもうお一人のSWを迎え、さらにパワーアップしたソーシャルワーク支援をしました。夕方引き継ぎをし、17時に遊楽館を後にしました。前谷地（まえやち）、小牛田（こごた）とローカル線で仙台に出ましたが、車窓の風景は八重桜、ライラック、木蓮、藤、鳶尾草などが咲いている一方、ブルーシートや瓦礫の山には目が締め付けられる思いでした。

以上、まとめませんが、まずはご報告いたします。